

NZとUSAで稼働する林業機械

New Zealand



USA Link-Belt



北米は Link-Belt ブランドで展開

BACK NUMBERS



森友 vol.16

有限公司 共同木材土木
北海道 SH120-7 玉置グラップル
遠野地区国有林材生産協同組合
岩手県 SH135X-7 IWAFUJI GP-45A
有限公司 遠田林産
山形県 SH135X-7 LOGSET ハーベスター TH55
南魚沼森林組合
新潟県 SH135X-7 オカダ木材グラップル+ウインチ
株式会社 大義林研
福井県 SH135X-7 Woody WH50-1
ロガーワークス 株式会社
福井県 SH135X-7 IWAFUJI グラップル+
山元林業
宮崎県 SH135X-7 KETO 150 ECO



森友 vol.15

堀川林業 株式会社
北海道 SH135X-7 WOODY WH50-1
合同会社 トッフォレスト
宮城県 SH135X-7 PONSSSE H6
大野木材店
埼玉県 SH135X-7 IWAFUJI GS-90LJ
株式会社 白糸植物園
静岡県 SH135X-7 オカダ NANSEI S110F101 FG27
北但西部森林組合
兵庫県 SH135X-7 KESLA25SH mkII
有限会社 中越木材
広島県 SH135X-7 IWAFUJI GP-35B
有限公司 大川林業
熊本県 SH120-7 IWAFUJI GP-45V



森友 vol.14

株式会社 リーヴフォレスト
大分県 SH75X-6A KESLA 20SH mkII
株式会社 あすなろ四国支社
高知県 SH135X-7 MSE 7エバージャガルロボ
北はりま森林組合
兵庫県 SH75X-7 KESLA 20SH mkII ハーベスター
スルガファイアース株式会社
静岡県 SH120LC-7SM (スマックス)
美和木材協同組合
茨城県 SH135X-7 MSE ハーベスター (トリケラ)
浜崎製材 株式会社
福島県 SH135X-7 AFM テレスコピックーム&伐倒ソー
株式会社 昭林
岩手県 SH120-7 PONSSSE H6



森友 vol.13

米崎銘木株式会社
京都府 SH75X-6A KESLA20SH mkII
株式会社 柳沢林業
長野県 SH135X-7 KESLA25SH mkII ハーベスター
スルガファイアース株式会社
静岡県 SH135X-6 KESLA25SH mkII ハーベスター
株式会社 鹿角緑地
秋田県 SH135X-7 KESLA25SH mkII ハーベスター
千歳林業株式会社
北海道 SH120-7 IWAFUJI グラップル



森友 vol.12

越智重機林業
北海道 SH135X-7 PONSSSE H6 ハーベスター
有限公司 真貝林工
北海道 SH135X-7 MSE-TR-55J トリケラ ハーベスター
株式会社 島田木材
富山县 SH135X-7 KESLA25SH mkII ハーベスター



森友 vol.11

井上産業株式会社
北海道 SH135X-7 WOODY 50
みちのくバイオエナジー株式会社
青森県 SH120LC-7MH MUROTO グラップル
有限公司 斎一林業
福島県 SH120-7 IWAFUJI GP-45A
有限公司 西湘造林
神奈川県 SH75X-6A NANSEI グラップル
竹上木材株式会社
和歌山县 SH135X-7 KESLA25RH mkII
隱岐島後森林組合
島根県 SH120-7 NANSEI スイングヤード
有限公司 つしまエコサービス
長崎県 SH135X-7 IWAFUJI グラップル



森友 vol.10

伸山林業株式会社
岩手県 SH120-7 PONSSSE H6
アプマエコロジー有限会社
福島県 SH135X-7 KESLA25SH mkII
企業組合 山仕事創造舎
長野県 SH135X-7 IWAFUJI グラップル
静岡市森林組合
静岡県 SH135X-7 KESLA25SH mkII
株式会社山崎木材市場
兵庫県 SH120-7 選木仕様
福岡都市開発株式会社
福岡県 SH135X-6 KETO150
株式会社トライ・ウッド
大分県 SH135X-6 NANSEI NPH-48



森友 vol.09

オホツクバイオエナジー
株式会社
北海道 SH135X-6 グラップル
雄勝広域森林組合
秋田県 SH135X-6 WOODY
田中林業株式会社
東京都 SH75X-6A KESLA20SH
株式会社守岡林産
広島県 SH135X-6 KETO
株式会社高知官材
高知県 SH135X-6 KESLA25SH



森友 vol.08

吉小牧バイオスマス発電
株式会社
北海道 SH120-6 MH
株式会社 レンタルのニッケン
東京都 東京中央森林組合
石川県 八頭中央森林組合
鳥取県 SH75X-6A
丸和林業グループ
山陰丸和林業株式会社
京都府 SH135X-6
株式会社山崎木材
兵庫県 SH75X-3B
丹波市森林組合
兵庫県 SH75X-3B
山陽商事
岡山県 SH125X-3
宮崎森林発電所
宮崎県 SH120-5



森友 vol.07

齊藤重興業
北海道 SH135X-6
氣仙地方森林組合
岩手県 SH120-5
小田原綠化開発
群馬県 SH135X-6
白川川森林組合
岐阜県 SH135X-3B
丹波市森林組合
兵庫県 SH75X-3B
山陽商事
岡山県 SH125X-3
宮崎森林発電所
宮崎県 SH120-5



森友 vol.06

五島森林組合
長崎県 SH135X-3B
四十万町森林組合
高知県 SH75X-3B
飛騨高山森林組合
岐阜県 SH120-5



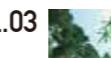
森友 vol.05

グリーン・シャイン
鳥取県 SH75X-3B
四十万町森林組合
高知県 SH75X-3B
つがる森林組合
青森県 SH135X-3B



森友 vol.04

山崎木材
広島県 SH135X-3B
秋田グリーンサービス
秋田県 SH135X-3B
つがる森林組合連合会
青森県 SH135X-3B



森友 vol.03

上野産業
鹿児島県 SH75X-3B
長浜市伊香森林組合
滋賀県 SH135X-3B
神子沢林業
山梨県 SH120-3
木材商秋田林業
徳島県 SH120-5
竹田木材
石川県 SH135X-3B
よつばファレスト/浅野産業
北海道 SH135X-3B



森友 vol.02

溝潤林業
高知県 SH75X-3
松阪地区木材協同組合
三重県 SH135X-3B
神父広域森林組合
埼玉県 SH75X-3B
西垣林業
奈良県 SH200LC-5SM
日和田林業
岐阜県 SH135X-3B
三井物産フォレスト
北海道 SH120-3



森友 vol.01

萬造寺林業
鹿児島県 SH135X-3
美山村森林組合
和歌山県 SH75X-3B
三次地方森林組合
広島県 SH75X-3
二和木材
岩手県 SH120-3

住友建機株式会社

<https://www.sumitomokenki.co.jp>

住友建機販売株式会社

<https://www.sumitomokenkihanbai.co.jp>

〒141-0025 東京都品川区大崎2-1-1 (ThinkPark Tower) TEL.03-6737-2610

北海道 統括部 TEL.050-9001-8626 東北 統括部 TEL.050-9001-8630

関東甲信越統括部 TEL.050-9001-9709 中部 統括部 TEL.050-9001-8639

関西 統括部 TEL.050-9000-9709 中四国 統括部 TEL.050-9001-8600

九州 統括部 TEL.050-9001-8647

●オペレータの養成・資格取得のご相談は 千葉教習センター TEL.043-420-1549

愛知教習センター TEL.0566-35-1311 大阪教習センター TEL.06-6476-4555

SUMITOMO



SHINYU vol.17

2025

AUTUMN



株式会社 ドゥナン林業

北海道 SH135X-7 IWAFUJI GPi40 TC



有限会社 サンワーク三浦

秋田県 SH135X-7 MSE プラキオ EX



株式会社 吉本

長野県 SH135X-7 KESLA 25SHmkII



有限会社 氏原林業

静岡県 SH75X-7 OKADA 木材グラップル



株式会社 岡本

滋賀県 SH75X-7 IWAFUJI 木材グラップル



南北和森林組合

愛媛県 SH135X-7 KESLA 25SHmkII



有限会社 藤義運輸

大分県 SH135X-7 KESLA 26RHmkIII





代表取締役 前田 政宏 様

株式会社 ドウナン林業

本社所在地：北海道上磯郡知内町湯の里112-2

代表取締役 前田 政宏 様

電話 01392-6-2527

法人設立 平成29年6月

株式会社ドウナン林業が所在する上磯郡知内町は、北海道南西部（道南地方）の渡島半島南部に位置し人口は約3700人、農林水産の第一次産業の就労従事者の多い、のどかな田園風景が広がる穏やかで落ち着いた町である。町の東は津軽海峡に面し、遠くに青森の下北半島が眺望できる。また住所地である湯の里地区は、800年前の鎌倉時代に開湯した北海道最古の温泉である知内温泉がその地名の由来となっている。

株式会社ドウナン林業は、湯の里地区において平成29年（2017年）に創業された新しい事業体である。開業以来8年の道のりと今後の展望などを代表取締役前田政宏氏にお話しいただいた。

「ドウナン林業を起業する以前は父親と私と弟の3人で造林業を営んでいました。その時はチェーンソーや刈払い機を使って山の手入れをする作業をしていたのですが、私には高性能林業機を使って仕事をしたいという思いがずっとあり、その夢を叶えるために独立しま

した。その当時、知内町で林業機械の補助事業があり、それを受けた住友のSH120標準機を導入して事業を開始することができました。ただ、仕事のパートナーには恵まれず孤軍奮闘する日々を送っていた時に、北海道立北の森づくり専門学院が開校したことを知り、第一期生の企業説明会に行きました。そこでインタークレッジで研修生を受け入れる話になり、2名の生徒さんが、弊社に3週間の研修に来る事になりました。下刈作業ばかり3週間させただけで、仕事をきちんと教えた覚えもないのですが、なぜか気に入ったみたいで研修終わりに就職したいといってくれたので雇い入れすることにしました。今年で3年目になります。あと娘婿も入社したので今は私を含めて4名で現場をしています。施業地域は、知内町と隣接する北斗市、函館市など渡島半島一円です。施業内容としては民有林や市有林、町有林などの間伐が主な仕事になります。高性能林業機は、グラップル3台とハーベスター1台を所有しています。特に2年前にハーベスターを導入してからは仕事の効率が飛躍的に向上し、素材生産高も前年比200%にアップし8400m³になりました。

最近導入している機械はすべて住友製です。住友の代理店であり、私が信頼している第一自動車工業さんが勧めてくれるのが一番の理由ですが、実際乗っていて燃費も他社製より断然良いし、作業の滑らかさやパワーも申し分ありません。それに、メンテナンスも早いし、アフターサービスの良さにも感心しています。

会社の将来的な展望については、若い社員の成長に伴って、次のステージを目指したいと思っています。北の森づくり専門学院は、基礎をしっかりと教えておられるようで、卒業



SH135X-7 IWAFUJI グラップル



SH135X-7 IWAFUJI GPi40 TC



森づくりは 人づくりから





代表取締役 三浦 正行 様

有限会社 サンワーク三浦

本社所在地：秋田県秋田市金足黒川字黒川226番地

代表取締役 三浦 正行 様

電話 018-873-4156

法人設立 平成10年7月

有限会社サンワーク三浦が所在する秋田市は、秋田県の県庁所在地であり、人口は29万3千人余り、県の人口の3分の1を占める政治・経済・文化の中心である。高い緯度から雪国のイメージを持っていたが、日本海の沿岸部は冬の降水量は少なく積雪も20cm程度だという。取材に向かう車窓から見える里山の杉も、豪雪地に見られる根曲がりなどなく真っ直ぐに天に向かって伸びている。

有限会社サンワーク三浦は、現社長が大学卒業後、故郷に帰ってくる事を機に設立した法人であるという。社長の父上である前代表が「太陽のもとで元気に働く」ことを願ったネーミングだそうだ。産業が少なく、細々と代々繋いできた仕事が、「太陽のもとで元気に働き続け」今まで27年を経て、現在は社員15名、素材生産高23000m³の規模に成長した経緯や背景を代表取締役三浦正行氏に取材させていただいた。

「弊社の社員は若い人が多いですね。15名のうち、8名が20代。平均年齢も32歳くらいです。林業大学校からインターン指名で来ていた3名が入社していますし、若い社員がその知人を連れてきたりとか色々ですが、若い人材の確保に苦労は感じていません。ただ若い社員が多いので、安全には特に気を使っています。何が起こるかわからないので、すべての仕事を危ないと考えて怖がってやって欲しいと思っています。

施業のエリアは、社から1時間以内、3~4人の3班に分かれて現場に向かいます。施業地は100%民有林です。営業専任の社員が山主さんを回って仕事を請けています。管理面積は自社山も含めて1000haくらい。以前は間伐が多かったのですが、今は皆伐主体です。そして県が再造林を推進しているので再造林率100%を目指して年間20ha~30haを植林しています。自社分の苗木くらいは自社で作ろうと思い立ち、種苗組合で講義を受け、ハウス2棟分程度の広さで3年前から育てています。森林資源を循環させることの大切さは身を持って感じます。実際私が今日伐っている木は祖父が植えた木なのだから、私は私の孫世代のために植林することが使命だと思っています。

秋田市の樹種はスギです。50年生から70年生が主体で、直径の平均が40cmから50cmくらいになります。作業の効率化を計るために、高性能林業機は必需です。ハーベスターを4台所有していますが、全機住友製になりました。選定理由は、社員からの高い評価です。操作性が高く、パワーもある、燃費も良いので、住友の機械を購入し続けて欲しいという要望が出来的いるからです。

社の将来的な展望として、こなせる仕事量は現在の人員ではMAXで、事業拡大のためには人員を増やす必要があると思っています。

ただ、民間の山は山主さんからの信頼が最も大切なことで、単純に増員するだけでは無理が生じます。山主さんへの利益の還元はもちろんのこと、助成金の範囲内で、丁寧な仕事をして美しい山にしてお渡しすることを心がけています。急ぐことなく、地道に、確実に仕事を続けていくことで収入が良く、評判の良い、安定した企業へと高めていきたいと考えています。

新しい技術と 発想で未来の 林業を築く



SH135X-7 MSE ブラキオ EX



SH135X-7 MSE トリケラ





株式会社 吉本

本社所在地：長野県南佐久郡佐久穂町大字平林121

代表取締役 由井 正宏 様

電話 0267-86-4305

創業 明治20年4月

法人設立 明治43年4月

株式会社吉本は、1887年（明治20年）に佐久穂町で開業された138年の歴史を持つ企業である。開業時は木炭の販売を生業とし、その品質の高さで評判となり企業としての礎を築いていく。同社の創業50年を記念して社史を著した書物が発刊されており、その「興志本50年の歴史」（当時の法人名は興志本合資会社）という本を紐解くと、社会の発展に伴って、扱い商品が変遷していくのが分かる。鉄道用枕木、建築用杭丸太、電柱など、現代では目につくことはないが、日本の近代化に木材の果たした役割が読み取れる。扱い商品の中でも特に枕木と杭丸太の販売量が突出して多く、同社の発展に寄与するところが大きい。枕木など日本全国の鉄道会社を顧客としており私鉄に関しては、納材シェアが日本一であったと記されている。

しかし戦後日本の新たな復興と発展の波は、同社を飲み込んでしまう。同社のメイン商品であった枕木、杭丸太、電柱などの素材がコンクリートに代わっていったことで業績の凋落が始まる。

現会長の由井正隆氏は、昭和48年に入社された。会長によると「国産木材業界は昭和39年がピークで、その後雪崩れを打つように落ちていった。私が入社した昭和48年のオイルショックで一時的に木材価格が上がった時もありましたが入社以来ずっと苦しい時期が続きました。」



その苦しみは平成5年に多くの負債を抱えた子会社や全国各地にあった支店や工場を手放して会社を再スタートする時まで続いた。

「平成5年に6000haの山林と地元に作った小さなショッピングセンターだけを持って独立しました。6000haの山林も樹齢が10年20年生程度でまだ売り物にならないような木ばかりです。ただ、20年後30年後には会社が残っている限り、販売できる時期が来るのが確実なのでそれに備えようと考えました。長い間山を眺めているだけの時間が続きましたが、10年くらい前からやっと伐れる樹齢になってきています。長く苦しい時期が続きましたが、林業者として誇らしい出来事もありました。それは、2019年に令和の大嘗祭で宮を造営するためのカラマツ1200本を宮内庁に納める仕事を請けたこと、2021年の東京オリンピックで有明体操競技場の屋根や梁の材をすべて当社から出すことができたことです。どちらも誇らしく良い思い出となりました。」

氏は、東京オリンピックの翌々年、社長職をご子息に譲られ、会長職に勇退された。

社長に就任されて2年目の代表取締役社長由井正宏氏に会社の現況や展望を伺いました。

「弊社は長野の本社と岩手、群馬の3事業所で事業を行っており従業員は50名ほど在籍しています。作業班は長野で4~5班、岩手2班、群馬1班の体制です。素材生産量は、毎年上下しますが20000~30000m³程度です。樹種はカラマツ、アカマツ、スギ、あとナラやクリなどの広葉樹も取り扱っています。」



SH135X-7 KESLA25SHmkII

自然と共生し ONLY ONE の森林サービスを追求する



会長 由井 正隆 様



部長、次長の2ショット



有限会社氏原林業が所在する浜松市浜名区三ヶ日町は、浜名湖の北部、奥浜名湖と呼ばれる地域に位置し、温暖な気候を利用した温州みかん『三ヶ日みかん』の産地として全国に知られている。

氏原林業は、昭和34年に現社長のご両親が三ヶ日町に居を移し素材生産業を業としたことに始まる。

当時のことを氏原孝社長は懐かしいそうに語られた。



有限会社 氏原林業

本社所在地：静岡県浜松市浜名区三ヶ日町字志703-1
代表取締役 氏原 孝 様
電話 053-525-1250
創業 昭和35年4月
法人設立 昭和55年4月

「子どもの頃から山は身近な存在で、山仕事をする親の背中を見て育ちました。ただ、林業そのものが徐々に衰退していくのは何となく感じました。雇っていた人が高齢化などで減り、いつしか父親の仕事を自分が助けなければと思い手伝い始めました。その後も私以外の新しい人材はなかなか確保できず、少ない人数で仕事を続けていました。三年間の手伝いの時期を経て、真剣に家業を継ごうと決心し林業の世界に飛び込んだのですが、今から考えると何の根拠も目算もない安易で楽観的な決意でした。

新たな人材を確保することは急務で、そのためには雇用形態を変えることが必要だと考え、私の入社を機に昭和55年に法人化しました。そして社会保険制度など安心して働ける環境を整備することで人材雇用に備えました。

施業についていと、当初は立木買いをしていましたが、リスクが多くなかなか利益につながりませんでした。そうして頑張っているうちに、国有林の請負生産事業が始まりました。伐った分だけ報酬を得られる堅実な仕事が、自社に合っていると考え、それをメインに仕事することにしました。また、会社が里に近いので神社仏閣の特殊伐採の仕事も創業の頃からある程度の需要がありました。

高性能林業機の導入は、平成10年にグラップルを入れたのが最初です。それまでは手作業でしたので、導入して作業が大きく変わりました。住友の機械を最初に入れたのはKESLAです。この近辺はヒノキも多いので、特に南向きの斜面など枝のつき方がすごく、色々試しましたが他のメーカーのプロセッサーではとても扱えないKESLAを選定しました。住友機はベースマシンの足回りが良く、登攀力もあり、旋回もスムーズ、駆動力が違うのでその後はずっと住友機を導入しています。メンテナンスはスズキ機械産

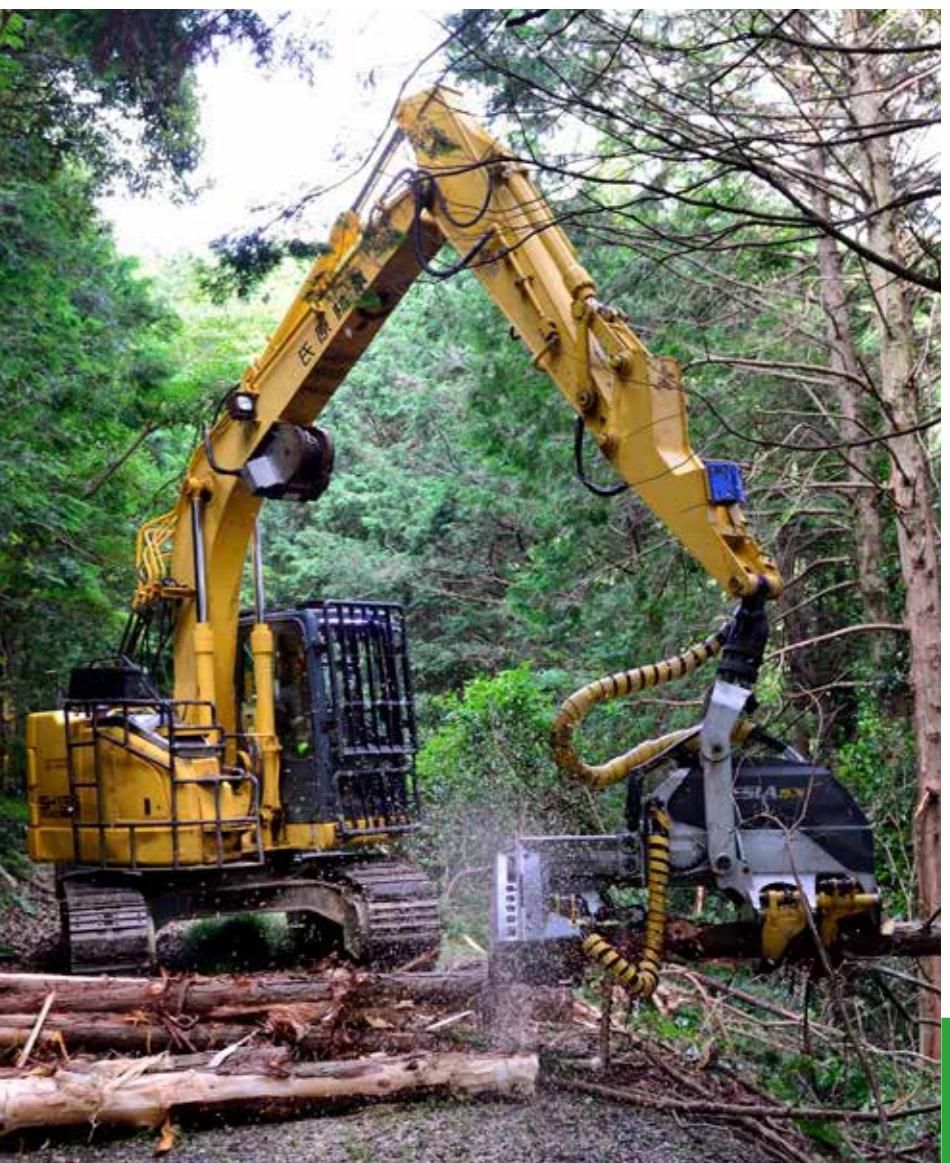
業にお世話になっており、何かあれば素早く対応していただけるので感謝しています。今弊社の社員は私を含めて9名在籍しており、現場従事者の年齢は35歳から42歳まで、平均年齢も37、8歳くらいです。7年前に森林組合の市場に勤めていた次男が入社して仕事を頑張って会社を継いでくれそうでちょっと安心しています。」

ご子息である氏原秀治取締役にもお話をうかがいました。

「父が社長職を継いだのが38歳の時で、今年私は37歳になりました。来年までに父の域に達することができるかはわかりませんが、自分を高めていくと7年間仕事に打ち込んできました。父がこのハードな仕事を四十年以上続けて来たのはシンプルにすごいことだと尊敬しています。この誠実な仕事ぶりが評価されたから令和の大嘗祭の設営材として天竜スギの伐採搬出事業者に選定されたのだろうと思うと本当に誇らしいことです。

ただ、自分は一人で周囲の人をひっぱって行くタイプではないので、社員がお互いを理解し、協力して組織を作るようにならねばと思います。情報発信の新たな取り組みとして

インスタグラムで社員の仕事動画をアップしています。これからの林業は見栄えも大切な要素で多くの人に見ていただきたいし、それが集客につながればとの思いもあります。何より自分達の仕事ぶりを見ることで、仕事の手順や無駄な動きなど、多くのことが見え技術向上につながっています。また、山だけで仕事をしているとお客様にどう評価されているかが分かりません。特殊伐採はスキルアップにもつながるし、地域の人からありがとうと感謝される喜びを知れる仕事なのでこれからも続けたいと思っています。祖父の代から数えると創業58年です。今後も氏原林業の名に恥じない仕事を続け代を重ね100年企業を目指したいと思います。」





株式会社 岡本

本社所在地：
滋賀県近江八幡市馬淵町1719番地
代表取締役 岡本 孝之 様
電話 0748-29-3792
法人設立 令和2年7月

株式会社 岡本が所在する近江八幡市は、滋賀県中部 琵琶湖の東岸に位置し、織田信長が築いた安土城と近江商人発祥の地として知られている。市域は全般に平坦な地形で小高い山が点在するだけで、林業に適した地域とは思えなかった。近江八幡市で滋賀県に林業事業体として登録されているのは、今日お伺いする株式会社岡本 1社だけとの事。

余談になるが、住友第二代総理事、伊庭貞剛も近江八幡の出身である。伊庭は、明治時代に日本の近代化、工業の発展に伴う公害問題解決のための責任者として本社から愛媛に派遣された。彼は、住友新居浜精錬所の煙害で枯れた山林や別子銅山の開発で荒れるがままになっていた山林を見て、企業の社会的責任として、もとの青々とした大自然にかえさねばならないと痛感し、植林などの環境復元に努めることになる。数年でその責務を果たし、永続的な山林の管理を目的として現在の住友林業を設立した。今回住友の林業史の最初のページを記した人物の誕生地

を訪ることは感慨深いものがある。

最初に代表取締役 岡本孝之氏に会社の沿革などをお話し下さいました。

「2008年に造園土木を主な業務として独立開業しました。林業に携わるきっかけは、2009年に知り合いに誘われて森林整備の仕事を手伝い始めたことで、序々に移行しました。当時は林業の変革期で素材生産や作業道の作設など、重機を使う必要があったのですが、このあたりで林業をされていた方で重機を扱える人が少なかったため、造園土木の仕事で重機を扱っていた技術と経験を持つ私が重宝がられたのだと思っています。

2020年に法人設立をしました。業務内容は、国有林の入札がメインで、申請は北海道以外のすべての地域に出しています。今日までの施業範囲は、東は関東圏まで、西は中国地方までです。滋賀県は国有林が少ないので、ためらいなく外に出ていけることが弊社の強みだと思っています。仕事の内訳は、造園土木の仕事もしますが、林業仕事が多くを占めています。委託業務が多いので、自社での素材生産量は3,000m³程度です。雇用や業績の安定のためにも将来的には立木の買取や自社山の所有を考えています。社員数は、私や事務、現場作業の人員を併せて14名の在籍になります。その年齢構成は、最年長65歳、最年少16歳、平均年齢は37~38歳くらいです。それとは別に、今年の7月にネパールから2名、外国人技能実習生を受け入れる予定です。社員への新しい刺激になれば良いなと考え、ネパールへ面接に行き採用してきました。彼らが来るのが楽しみです。

高性能林業機は、新車で導入したSH75X-7を含めてショベル系は7台所有しています。機械に対する要望は特にありません。前回導入したSH75X-6Aもそうですが、住友の機械には満足しています。



作業形式については、従来の概念を壊すこと、今まで習ってきたことや地域地域で縛られてきたことが本当に効率的で今の林業にも通用しているのかと、経験や地域における固定観念を見直すところから始めている気がします。

地域によって設計の仕様が違うことが多々あります。弊社内でも世代間で物の見え方や考え方方が違います。私自身が違和感を感じて、例えば若い社員の考えを頭ごなしに否定するのではなく、柔軟に受け止め考察することが重要だと思っています。

将来的な目標は、生涯現役でいつまでも若い世代と張り合っていきたいと思う反面、次世代そしてまたその次の世代の礎になればというのが、私の思いです。

次世代、また次の世代が 林業の面白さを実感できる会社を創りたい

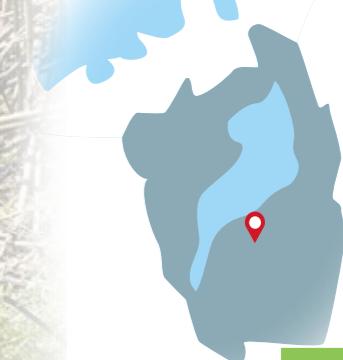
SH75X-6A MSE フェラーバンチャザウルスロボ



SH75X-7 イワフジ 木材グラップル



栗田総務部長、滋賀建機野田所長、弊社営業談笑中





南宇和森林組合

南宇和森林組合
本社所在地：愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲1534-1
代表理事組合長 青木 千之 様
電話 0895-72-1842
設立 昭和46年12月

南宇和森林組合が所在する愛南町は、南宇和郡にあった旧5町村が2004年に合併して発足した町である。合併当時には約30000人を数えた人口も2025年現在では約18000人までに減少し急速な過疎化が進んでいる。地理的には愛媛県の最南端に位置し、町域の8割は険しい山地でありその山裾は海に迫り複雑なリアス式の海岸線を創っている。町の主たる産業は水産業になる。鯛や牡蠣などの養殖が盛んで、高知のイメージが強いカツオの水揚げもこの町の深浦港が四国一だという。そんな水産業の盛んな愛南町で、町唯一の林業事業体である南宇和森林組合の概要を数字で並べると、組合員数1300名、人工林面積は約8000ha、樹種はヒノキ80%スギ20%、ヒノキの樹齢は55～60年生、昨年度の素材生産量は6000m³となっている。組合職員は内勤6名、現場7名。7名1班での施業体制をとっているという。

今回南宇和森林組合の青木千之組合長と実務を担当されている清水広幸参事にインタビューのお時間を作っていただいた。

まず清水参事に組合ではICTを林業に活用され、いわゆるスマート林業に取り組まっているとお聞きしたので、そのことをお訊ねした。「今のところICTまでとは言い切れません。KESLAハーベスターに標準装備されている機能で材積管理ができるので、週に一度USBにデータを移して事務所に提出してもらっています。その作業を6年前に2台目の20SH6型KESLAを導入した時から続けており、持ち帰ったデータを分析しています。それで大きく作業が変わることはあります。材径や本数、材の長さなど色々なことが数値として見えるので、工程の管理や目標値の設定がしやすいうことなど、仕事をする上での有効な資料として活用しています。今は現場職員の人数は少なく、仕事の効率化は必須事項です。現場で山に集中してもらうために仕分けなどの労力を減らすため材は市場へ持って行くことにして

おり、その搬送も外注しています。

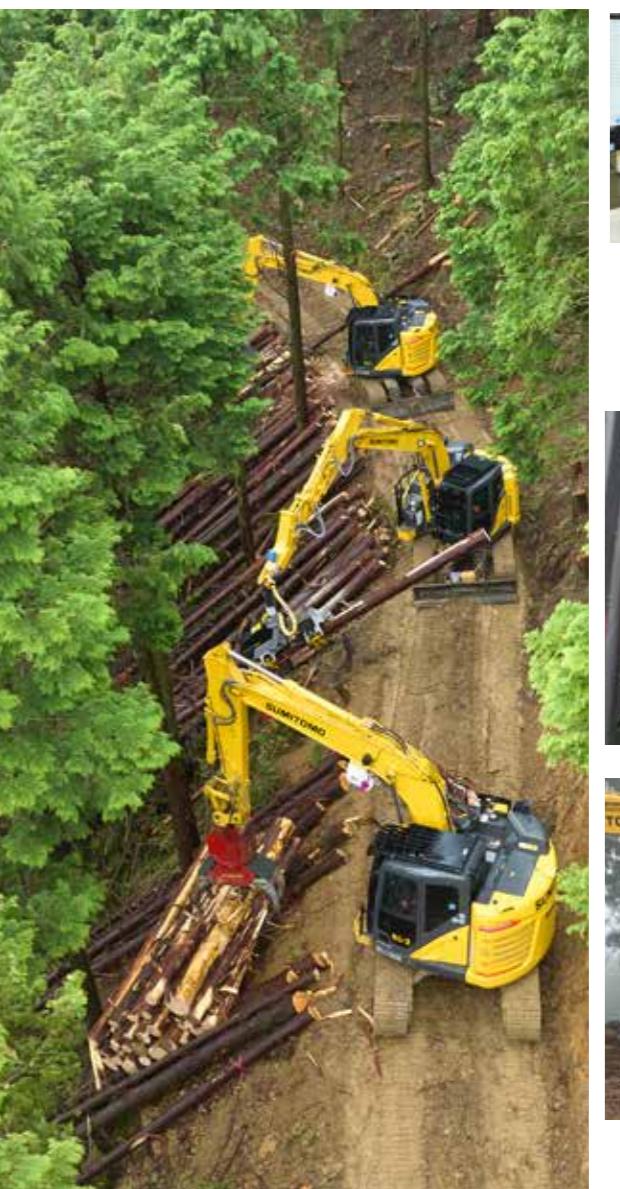
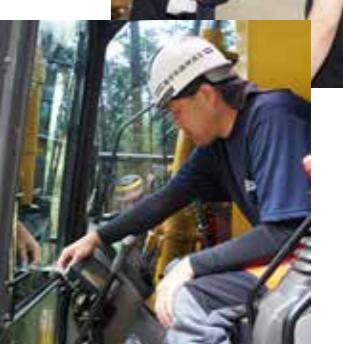
ICTでいうドローンにレーザーを積んで森林解析をしたいと考えているのですが、レーザーも解析ソフトも金額が高く踏み切れない状況です。今のところドローンは国有林の列状間伐の確認などにしか利用できません。将来的には森林解析をして調査の簡略化を進めたいと考えていますが、森林は密なので見えない木が結構でてたりするので、なかなか高精度の森林解析は難しいようです。林業という分野は正確性などを考慮するとICTがもっとも難しい分野かと感じています。林業でどこまでICTを進められるのかは今からの課題になるかと思います。」

最後に青木千之組合長に組合の現状や今後についてお話をいただいた。

「愛南町は水産業と農業の盛んな町です。私も行政にいた頃は水産業と農業関係にはある程度の知識はありました。林業に関しては素人同然でした。16年前に縁あってこの組合の組合長に就任してから森林を見て森林を考えるようになり森林の大切さが理解できるようになりました。県や町の予算を見ても水産業及び農業と比較して林業への予算措置が充分ではないのが現状であります。森



林の知識を少し持てば、水産業の中核である養殖を支えている豊潤な海は、先人の林業従事者が丁寧に整備した森林が涵養した水資源がもたらしたものだと理解できるはずです。今後愛南の森林をどうすれば良いか、森林の恵みを思い、森林に対する理解をもう少し深めていただきたいと思います。」



SH135X-7 KESLA26RHmkIII



有限会社藤義運輸が所在する竹田市（たけたし）は、大分県の南西端に位置し市域の西は熊本県に、南端は宮崎県と隣接している。周囲を1000m級の山岳に囲まれており、かつては岡藩の城下町として栄え、そのシンボルである岡城は、滝廉太郎が「荒城の月」の作曲時にモチーフとして扱われたことで有名である。町には今も武家屋敷通りなど当時の風情を偲ぶ町並みが残されており、豪奢や華美ではなく、少し武骨だが凜とした美しさを持つ日本の原風景がこの町には存在している。ウィキペディアによると、主な産

業は農業、林業、運輸業であるといふ。

木材運搬専門の運輸業を21歳で起業し今年で42年目を迎える有限会社藤義運輸代表取締役の佐藤芳和氏にお話を伺った。

「竹田市は農業と林業が主な産業で、車が好きだったので運送の仕事をと起業しましたが、森林組合に知人がいたこともあって木材運搬が主体となりました。当時は白ナンバーでもうるさく言われなかつのですが、30歳になった頃にはトラックも6台に増えており、事業の拡大を機に、平成4年 法人を設立し許認可登録業者になりました。当時は木材運送を専業とする業者はあまりおらず、仕事の効率化を図るためにグラップル付きの車両を導入したりしても、まねをする業者は出てきませんでした。

平成14年 林業部を開設しました。そのきっかけは、運送費用が開業以来20年間の長期的なスパンで比較しても上がっておらず、むしろ下がってきたので、運送だけでは食べていけなくなるという危機感を感じたことからです。林業部は当初私を含めて3名で、中古ですがプロセッサー、グラップル、フォワーダー、クローラーを買って始めました。その時の最先端の機械を使うことは、仕事の効率や安全性を考えた時、絶対に必要なことだと思っています。それは、私の基本的な考え方で当時も今も変わっていません。林業部

での仕事で苦労はありませんでした。ただ、トラックにも乗る、買い付けのために営業にも行く、木を伐りに山に入るといった日々は、身体がいくつあっても足りない感じでした。今は営業の社員が入ったので本当に楽になりました。

藤義運輸全体で、社員は36名、そのうち林業部は9名です。山には3名ずつ3班の構成で入っています。昨年度の実績は、素材生産量30000m³。作業は民有林を中心に皆伐だけ行っています。樹種は80%がスギ、残り20%がヒノキです。戦後すぐに植林された70年生、80年生の大きくなつた木が多いですね。ヒノキを打つ時にKESLAは違います。枝打ちのスピードが全然違います。機械の選定基準は、機械の性能はもちろんですが、むしろ私は相手の人間性を重視しています。住友の井上支店長も、リタプラスの藤川社長も、お付き合いの中でその人を見て信頼した人たちです。そんな人から機械を買いたいと思っています。

現在弊社で所有する高性能林業機はフェラバンチャ3台、ハーベスター2台、プロセッサ2台、グラップル8台、クローラー3台、フォワーダー2台になります。あとバイオマス発電所向けのチップ製造も手がけているのでその粉碎機も2台あります。先月は多くて、約5000t出荷しました。枝をつけたまま山で粉碎することで山に残材を残さないようにしています。伐る、運ぶ、整地する、植える、の一環経営を目指して始めましたが、今のところ順調に推移てきて、一種達成した感はあります。これも私の座右の銘であり、社訓とした『誰が選んだ道でもない 自ら選んだ道 成し遂げるより他はない』を胸に刻み突き進んできたからだと思います。



代表取締役 佐藤 芳和 様

有限会社 藤義運輸

本社所在地：大分県竹田市荻町高練木2335-4

代表取締役 佐藤 芳和 様

電話 0974-68-2771

法人設立 平成4年9月



伐る・運ぶ・植えるまでの 一環経営を目指して

お客様とリタプラス藤川社長と弊社営業談笑中



SH120LC-7 スミマックス



有限会社藤義運輸